SHARP

ルームエアコン 工事説明書

販売店・工事店様用
据付工事を行う前に必ず読んで、これに従って工事をしてください。
工事後、「据付工事後の確認」を行うとともに、取扱説明書にそってお客様に商品の説明をしてください。

B952 ①

冷媒 R32

家庭用エアコンにはGWP(地球温暖化係数)が675のフロン類(R32)が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄等にあたってはフロン類の回収が必要です。

安全上のご注意

据え付け前に、この『安全上のご注意』をよくお読みのうえ、据え付けてください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

表示を無視して、誤った取り扱いをすることによって生じる内容を次のように区分しています。

⚠警告	⚠注意
「死亡または重傷を負うおそれがある」内容です。	「軽傷を負う、または財産に損害を受けるおそれがある」内容です。

お守りいただく内容の種類を次の表示で区分しています。

してはいけない「禁止」内容です。	必ずしなければならない「強制」内容です。

据付工事の完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。
また、この工事説明書は、取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。

⚠ 警告

- **据え付け・移設・廃棄は、お買いあげの販売店、または専門業者に依頼し、工事には必ず当社付属部品及び指定の部品を使用して確実に行う。据付工事は、この工事説明書に従って確実に行う。**
  (室内機・室外機の落下や水漏れ、火災、感電の原因)
- **据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。**
  (強度不足や取り付けが不完全な場合は、室内機・室外機の落下により、ケガの原因)
- **電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」、及び工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。**
  (電源回路容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因)
- **漏電しゃ断器を取り付ける。**
  (漏電しゃ断器が取り付けられていないと、感電、火災の原因)
- **電源プラグを差し込む際は、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもホコリの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む。**
  (ホコリの付着、詰まり、がたつきがあると、感電、火災の原因。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください)
- **据付作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。工事終了後、冷媒が漏れていないことを確認する。**
  (冷媒が漏れ、滞留し、火気に触れると、まれに引火し、有毒ガスが発生する原因)
- **室内外ユニット間配線は、途中接続やより線の使用をせず、所定のケーブルを使用し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する。**
  (接続や固定が不完全な場合は、故障や発熱、火災の原因)
- **室内外ユニット間配線は、端子板カバー(コードクランプ・コード押さえを含む)が浮きあがらないように整形し、カバーを確実に取り付ける。**
  (カバーの取り付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因)

- **配管、フレアナット、工具はR32またはR410A専用のものを使用する。**
  (R22用では、機器の故障のほか、冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因)
- **フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける。**
  (締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒漏れの原因)
- **据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける。**
  (冷媒配管が取り付けられておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると空気等を吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因)
- **ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する。**
  (圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気等を吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因)

- **室外機は、ベランダの手すり近くに設置しない。**
  (お子様が登り、落下事故につながるおそれ)
- **電源コードの加工、途中接続、延長コードの使用、タコ足配線、ステープル等での固定はしない。**
  (接触不良・絶縁不良・許容電流オーバー等により、火災、感電の原因)
- **指定冷媒(R32)以外は使用(冷媒補充・入替え)しない。**
  (機器の故障や破裂、ケガ等の原因)
- **冷凍サイクル内に指定冷媒(R32)以外の空気等を混入させない。**
  (空気等が混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破壊、ケガ等の原因)

- **アース(接地)を確実に行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しない。**
  (アース(接地)が不確実な場合は、故障や漏電のとき感電の原因)

⚠ 注意

- **ドレン工事は、工事説明書に従って確実に排水するよう配管する。**
  (不確実な場合は、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因)
- **新築やリフォームなどの内装工事や床面のワックスがけ時は、エアコンの運転を停止する。**
  ワックスがけ等の作業後はエアコンの運転前に充分な換気を行う。
  (揮発成分がエアコン内部に付着し、水漏れや露飛びの原因)

- **室外機の吸込口やアルミフィンにさわらない。**
  (ケガの原因)
- **可燃性ガスの漏れる恐れのある場所へは設置しない。**
  (万一、可燃性ガスが漏れて室内機・室外機の周囲に溜ると、発火の原因)
- **室外機は、小動物のすみかになるような場所には 設置しない。**
  (小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因。また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。)

据付工事後の確認(必ず確認してください) □の中に✓印を記入して確認してください。

この工事説明書に従って工事しなかったことが原因による故障や事故などは、保証の対象になりませんので、ご注意ください。

- □ **電源電圧は規定どおりか。**
  コンセントに差し込む前に、電圧をテスターで確認してください。電圧が違うと故障の原因になります。
- □ **電源コードは以下のような誤った扱いをしていないか。**
  切断加工、延長コードの使用、タコ足配線、ステープル等での固定、室内機本体での圧迫等
- □ **ユニット間配線の挿入、固定は確実か。**
- □ **ユニット間配線は、途中接続をしていないか。**
- □ **アース線の接続は確実か。**
- □ **漏電しゃ断器は設置されているか。**
- □ **室内機、室外機は確実に据え付けられているか。**
  エアコンの重量に十分耐える場所で、騒音や振動が増大しない所に据え付けてください。
- □ **ドレン排水は確実か。**
- □ **配管接続は確実か。**
  配管接続部のガス漏れ検査を実施してください。
- □ **2方弁、3方弁は開いているか。**
- □ **試運転を15分以上行ったか。**

確認日	工事会社名	確認者
年 月 日		

付属品

室内機用 (室内機に同梱)

1 据付板 1枚	2 据付板取付ネジ 5本	3 リモコンホルダー 取付ネジ(黒色) 2本	4 リモコン 1個	5 リモコンホルダー 1個
6 乾電池 (単4形) 2本	7 フレアナット φ6.35㎜ (1/4″) 1個	8 フレアナット φ9.52mm (3/8″) 1個	9 断熱シール 1枚	10 不織布 1個

室外機用 (室外機に同梱)

11 ドレン口 1個

据付図

据付場所の選定

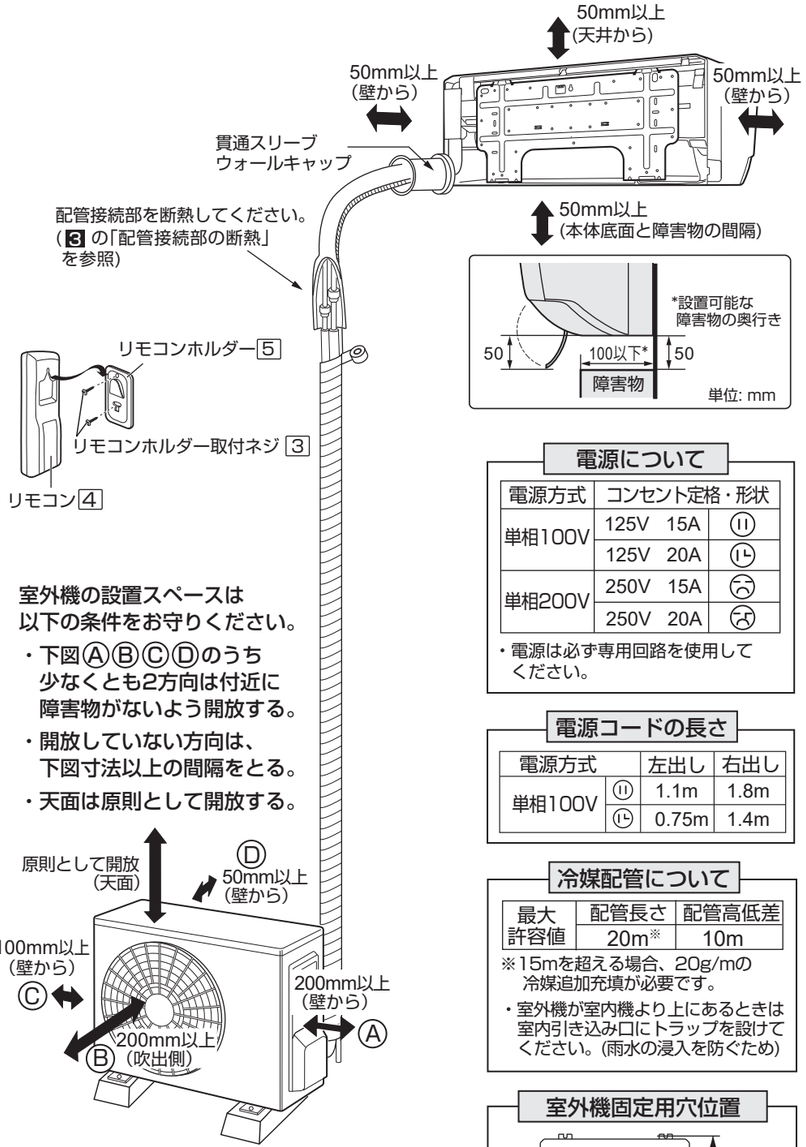
下記の項目に注意して、お客様の同意を得て据え付けてください。

室内機

- 吹出口付近に障害物がなく、部屋全体に風がゆきわたるところ。
  室内機下面から床まで1.8m～2.1mが目安です。
- ドレン排水と配管穴をあけるのが容易なところ。
- 本体周囲に据付図の矢印のスペースが確保できるところ。
- サンルームや温室など、直射日光が長時間あたるところへは据え付けないでください。
- 本体及びリモコンからテレビ、ラジオ、電波時計等を1m以上離してください。
- 空気吸込口の周囲には、空気の吸込の妨げになるようなものを置かないでください。
- 電子式瞬間点灯方式及びラピッドスタート方式の蛍光灯を付けた部屋では、リモコンが正常に動作しないことがあります。
- 運転音や振動が増大しないようなところ。
- エアコン吹出口が火災警報器から1.5m以上離れたところ。
- 部屋の外の温度・湿度が高いとき、冷房運転の際に、断熱材のない壁および天井に発露する場合があります。
- 近くに熱や蒸気、油煙の発生がないところ。

室外機

- 騒音が増大しないように、重量に十分耐えるしっかりした台に水平に据え付けてください。振動が大きい場合は、市販の防振ゴムを使用いただくと改善する場合があります。
- 風通しが良く、本体周囲に据付図の指示どおりにスペースがとれるところ。
- 強風が直接吹きつけるところは避けてください。故障や破損することがあります。
- 雨水のかかりにくいところ。
- 排水されたドレン水が流れても支障のないところ。
- 本体からテレビ、ラジオ、電波時計等を1m以上離してください。
- 近くに熱の発生、可燃性ガスの漏れ、またはたまるおそれのないところ。プロパンガス容器からは、2m以上離してください。
- 機械油の多いところや、海浜地区等塩分の多いところ、温泉地帯、硫化ガスのあるところ等、特殊な場所で使用すると、故障の原因になることがあります。
- 吹出口からの熱風や運転音が、隣家の迷惑にならないところ。
- 積雪等で吸込口や吹出口がふさがれないところ。



- 設置スペースは、据付場所に余裕があれば、できるだけ広く取ってください。
- 市販の配管カバーを取り付ける際は、配管を押さえつけないようにご注意ください。(水漏れ等の原因)

電源について

電源方式	コンセント定格・形状	
単相100V	125V 15A	⑪
	125V 20A	㊮
単相200V	250V 15A	㉑
	250V 20A	㉓

- 電源は必ず専用回路を使用してください。

電源コードの長さ

電源方式		左出し	右出し
単相100V	⑪	1.1m	1.8m
	㊮	0.75m	1.4m

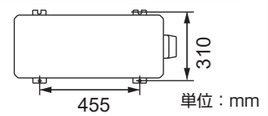
冷媒配管について

	配管長さ	配管高低差
最大許容値	20m※	10m

※15mを超える場合、20g/mの冷媒追加充填が必要です。

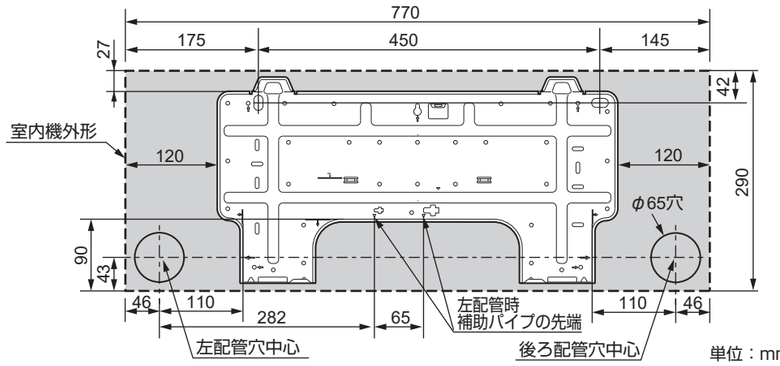
- 室外機が室内機より上にあるときは室内引き込み口にトラップを設けてください。(雨水の浸入を防ぐため)

室外機固定用穴位置



1 据付板の取り付け・配管穴あけ

室内機の取り付け寸法図



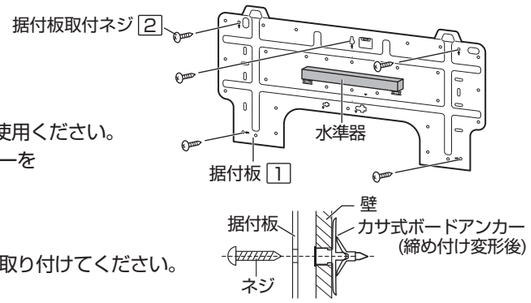
単位：mm

貫通穴径φ65mm 以上の穴をあけてください。

据付板の取り付け

据付板は水準器をあてて、水平に取り付けてください。

据付板固定位置：5カ所(⇦ の刻印があります)



壁に直接取り付ける場合

・取付ネジを5本以上用いて固定してください。
(5本同梱しています。必要に応じて追加してください。)
右図の据付板固定位置にネジ止めすることをおすすめします。
・板壁内の構造物(間柱、桟等)を利用し取り付けてください。
間柱等をさがすのが困難な場合は、ボードアンカー(市販品)等をご使用ください。
・壁が石膏ボードの場合、壁厚に応じた樹脂製のカサ式ボードアンカーを
ご使用ください。ねじ込み式は使用しないでください。
(保持強度が極端に落ちる場合があります。)
・取り付け後、手で引っ張って強度を確かめてください。
・住宅公団等、埋込みボルトがある場合は、公団用取付穴を利用して取り付けてください。

回り縁と鴨居につける場合

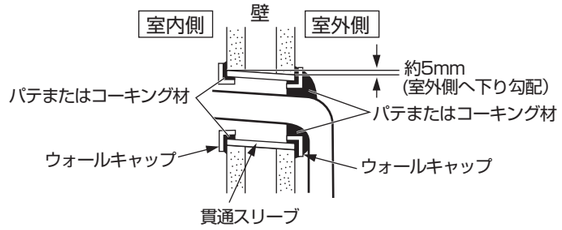
・取付アングル(市販品)を使用してください。

配管穴あけ

1. 壁に穴を室外側に下り勾配にあける。(ドレン排水のため)

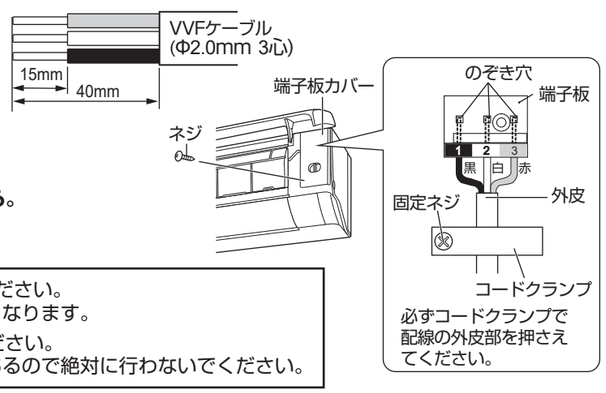
2. 貫通スリーブ、ウォールキャップを取り付ける。
・接続ケーブルや配管の保護、小動物の侵入防止、
結露による水漏れ防止のために、必ず使用してください。
・メタルラス、ワイヤラス等、金属を使っている壁は、
必ず使うように電気設備技術基準で定められています。

3. すき間をパテまたはコーキング材でシールする。
・化粧カバー仕上げの場合も必要です。
・シールが不完全な場合、雨水の浸入による壁内部の
腐食や外気の流入による結露の原因となります。



2 室内機のユニット間配線

1. ユニット間配線を加工する。
2. オープンパネルを開け、端子板カバーをはずす。
3. 固定ネジを取りはずし、コードクランプをはずす。
4. ユニット間配線の心線を端子板の奥まで確実に挿入する。
・のぞき穴から心線が見えていることを確認してください。
・配線の色を確認して挿入してください。
5. コードクランプと固定ネジで、ユニット間配線を固定する。
6. 端子板カバーを取り付け、オープンパネルを閉める。



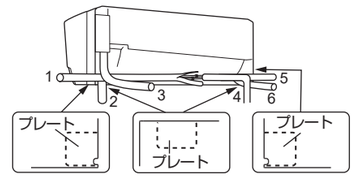
警 告

・ユニット間配線は、φ2.0 ㎜ VVFケーブルを使用してください。
より線は絶対に使用しないでください。接触不良の原因となります。
・VVFケーブルは中継器などを使って中継接続しないでください。
中継器を使用すると接触不良を起こして、火災の危険があるので絶対に行わないでください。

3 配管の引き出し・室内機の取り付け

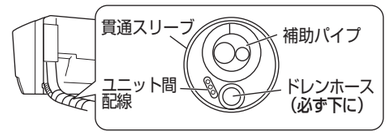
配管の引き出し

1,2,4,5 の方向のときは、プレートを切り取ってください。
・切り取り後は、本体内部の配線(電源コード、ユニット間配線)、
ドレンホース、補助パイプを傷つけないよう、鋭い切断面は処理してください。



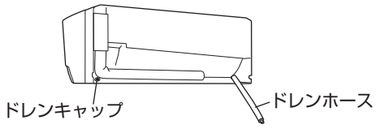
後・右・下配管の場合

**1.ドレンホース、補助パイプ、ユニット間配線を
まとめて配管穴に通す。**
・ドレンホースはトラップのないようにしてください。
・配管接続後は、接続部を断熱してください。
(下記「配管接続部の断熱」を参照)

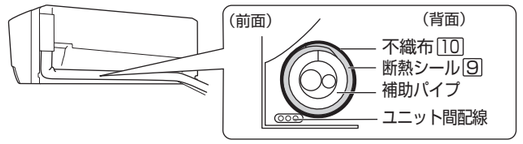


左配管の場合

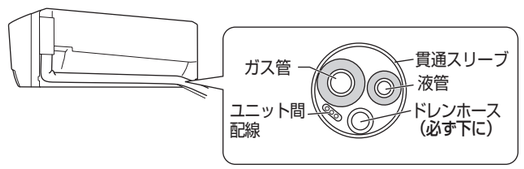
1.ドレンホースとドレンキャップを付け替える。(右図)
製品のドレンホースを必ず使用してください。



2. 配管を接続する。(6 配管接続 を参照)
3. 配管接続部を断熱する。
(下記「配管接続部の断熱」を参照)
4. 本体背面に配管とユニット間配線を収納する。



5.ドレンホースと配管類をまとめて配管穴に通す。
ドレンホースはトラップのないようにしてください。



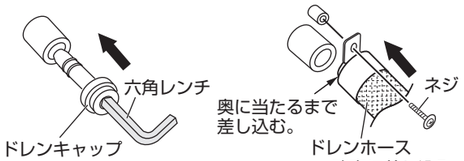
ドレンホースの付け替えかた

①ネジをはずし、
ドレンホースを引き抜く。

②ドレンキャップを
引き抜く。

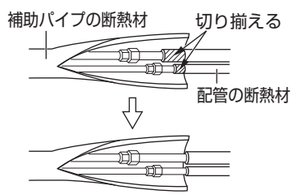


③ドレンホースとドレンキャップを付け替える。

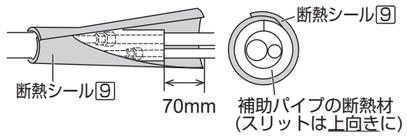


配管接続部の断熱

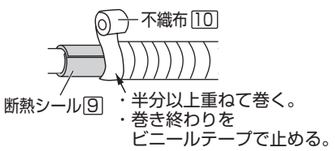
①接続した配管の断熱材を
補助パイプの断熱材の端面に
合わせて切り揃える。



②付属の断熱シール9を巻く。
・上面で重なるように巻いてください。
長い方(250mm)が横です。



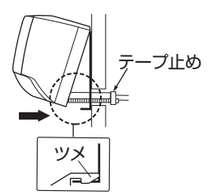
③配管を付属の不織布 10 で巻く。
・断熱シールを覆うように巻いて
ください。



取り付け

1. 本体上部を据付板に引っ掛ける。

2. 本体下部を押し込んで固定する。
固定後、本体下部を手前に引っ張り、
確実に本体が固定されているか
確認してください。



注 意

電源コードが余った場合、エアコン背面のスペースのある所にゆったりと収納してください。
・小さく折りたたんだり狭い所へ押し込まないでください。
また、本体と据付板 (とくに本体裏面のツメと据付板の受け部の間) にはさまないよう注意してください。
電源コードが破損し、発熱・火災の原因になります。
・電源コードを室内機の上面にのせないでください。

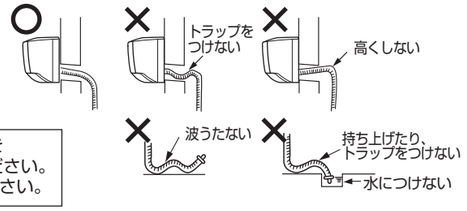
4 室内機のドレン工事

ドレン工事は、ドレン水が流れやすいように、必ず下り勾配をつけてください。(2°以上)

・ドレンホースを延長する場合は、
内径16mmのホースを使用してください。



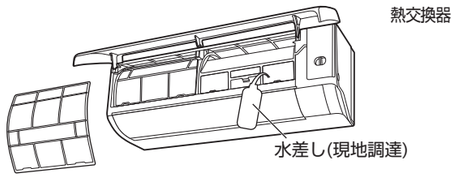
・ドレンホースが持ち上ったり、トラップをつけたり、ホースの先が
水につからないよう注意してください。水漏れ、異音等の原因となります。
・延長したドレンホースが室内を通るときは、断熱材を巻いてください。



ドレンホースにトラップがあると、高気密住宅などで強い風をうけた時や換気扇などを使用した場合、「ポコポコ」という音が出ることがあります。トラップの修正をしてください。修正が困難な場合は対応部品として、エアコン用逆流防止弁(市販品)を取り付けてください。

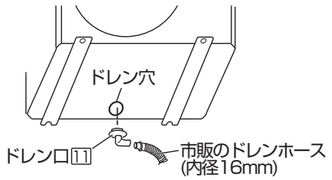
ドレン排水の確認（ドレン工事終了後、ドレン排水の確認をしてください。）

1. オープンパネルを開け、エアーフィルターをはずす。
2. 約200ccの水を熱交換器につたわらせて、ゆっくり注入する。
水の勢いが強いと、室内機内部で水が跳ね、水漏れ・故障の原因になります。
※注入するときは水差し(現地調達)などを使用してください。
3. ドレンホースから水が流れていることを確認する。
水が流れない時はドレンホースにトラップがないか確認してください。



5 室外機のドレン工事

暖房運転時、除霜等により
室外機ドレン穴から水が流れ出ます。
ドレン水を排水溝などへ導くときは、
ドレン工事をしてください。



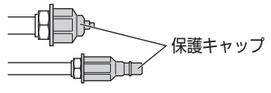
寒冷地でのお願い
寒冷地ではドレン水が凍結するので、
ドレン工事は行わないでください。
寒冷地: 日中でも外気温0℃以下の日が
2～3日連続する地域

6 配管接続 重要！

・冷媒配管は下記のものを使用してください。
材料･規格: リン脱酸銅継目無管(C1220T)　JIS H3300
配管肉厚: 0.8mm
断熱材: 耐熱発泡ポリエチレン・肉厚8～10mm（配管は1本ごとに断熱してください。）
・配管内への異物(油分、水分等)混入に十分ご注意ください。
・通常は室内機側、室外機側の順に配管接続してください。
・冷媒漏れ防止のため、フレア内面に冷凍機油の塗布をおすすめします。
フレア外面やフレアナットネジ部には冷凍機油を塗布しないでください。オーバートルクによるフレアナットの割れやネジ破損の原因となります。



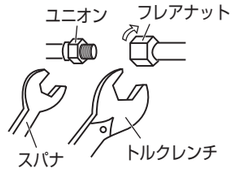
・室内機の配管にフレアナットは取り付けられていません。
付属のフレアナット 7 8 をお使いください
・保護キャップを取りはずしてください。
(室内機に窒素ガスが封入されています。)



1. フレアナットは、最初の3～4回を手で締め付ける。
2. トルクレンチを使用し、指定の締付トルク値公差内でしっかりと締め付ける。
トルクレンチとスパナを用い、2丁スパナ方式で締め付けてください。
(締め付け不足、及び締め付け過ぎは、冷媒漏れや変形･破損の原因)

フレアナット締付トルク

		2面幅		適合トルクレンチ
		ユニオン	ナット	
細管側	φ6.35㎜(1/4″)	12mm	17mm	16±2N·m
太管側	φ9.52㎜(3/8″)	17mm	22mm	38±4N·m
	φ12.7㎜(1/2″)	21mm	26mm	55±6N·m



《既設配管再利用時のご注意》
・配管肉厚は0.8mmが前提条件です。(JIS規格の配管)
・フレアはR32/R410A用に必ず再加工してください。(右記「配管のフレア加工」参照)
・古いエアコンが故障等により、ポンプダウンができない場合や配管内が極端に汚れている場合は、配管洗浄するか、新しい配管に交換してください。

配管のフレア加工

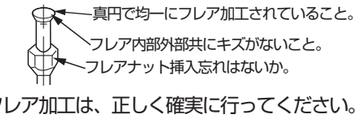
1. パイプカッターで配管を切断する。
切断面は直角にしてください。



2. バリ取りをする。
切粉を管内に入れないようにしてください。
3. フレアナットを挿入する。
フレアナットは必ずエアコン本体に使用しているものを使ってください。
4. フレア加工をする。
ダイスからの出し代(A)を正しくセットしてください。



出し代(A):
0～0.5mm (R32またはR410A用フレア工具)
5. 確認する。



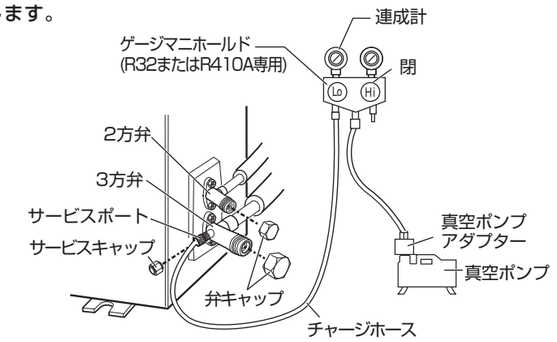
フレア加工は、正しく確実に行ってください。
不備があると、冷媒が漏れる原因になります。

7 エアパージ・冷媒漏れ確認 重要！

エアパージ

地球環境保護の観点から、エアパージは真空ポンプ方式でお願いします。

1. 太管側(3方弁)のサービスキャップをはずす。
2. 3方弁のサービスポートにゲージマニホールドのチャージホースを接続する。
金具のついている側(虫ピンを押す側)を接続してください。
3. ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全開にする。
4. 真空引きを10～15分間行い、連成計が -0.1MPa(-76cmHg)になっていることを確認する。
5. ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全閉にする。
6. 真空ポンプを停止する。
1～2分間そのままの状態にし、連成計の針が戻らないことを確認してください。(接続部の漏れ確認のため)
7. 細管側(2方弁)、太管側(3方弁)の弁キャップをはずす。
8. 2方弁の弁棒を六角レンチ(4mm)を使って、反時計方向に90°開き、5秒後に閉じ冷媒漏れの確認をする。
9. サービスポートからチャージホースをはずす。
10. 2方弁を全開にする。
(当たりがあるところまで回してください。)
11. 3方弁を全開にする。
(当たりがあるところまで回してください。)
12. 2方弁、3方弁の弁キャップとサービスキャップを取り付ける。
トルクレンチを用いて、指定の締付トルク値公差内で、しっかりと締め付けてください。



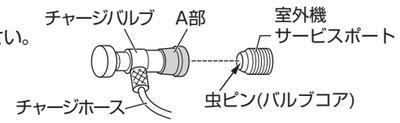
弁キャップ締付トルク

		キャップの2面幅	適合トルクレンチ
細管側	φ6.35mm(1/4″)	19 mm	24±3 N·m
太管側	φ9.52mm(3/8″)	19 mm	24±3 N·m
	φ12.7mm(1/2″)	22 mm	31±3 N·m

サービスキャップ締付トルク

キャップの2面幅	適合トルクレンチ
17 mm	11±1N·m

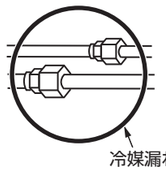
《チャージバルブ使用時のご注意》
虫ピン(バルブコア)の変形や緩みによるガス漏れのおそれがありますので、下記に注意してください。
・チャージバルブをサービスポートに取り付ける時は、A部のみを回して締めてください。
・虫ピン(バルブコア)を押し込んだ状態でA部を増し締めしないでください。
・虫ピン(バルブコア)を押し込み過ぎないでください。



冷媒漏れ確認

室内機側はフレア部周辺を、室外機側はフレア部周辺･弁棒周辺を、石けん水を塗布してチェックしてください。
チェック後は、ていねいにふき取ってください。
リークディテクターで冷媒漏れ確認をする場合は
HFC冷媒対応のものを使用してください。

室内機側

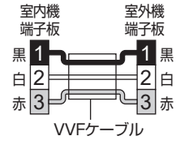


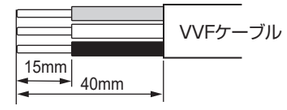
室外機側



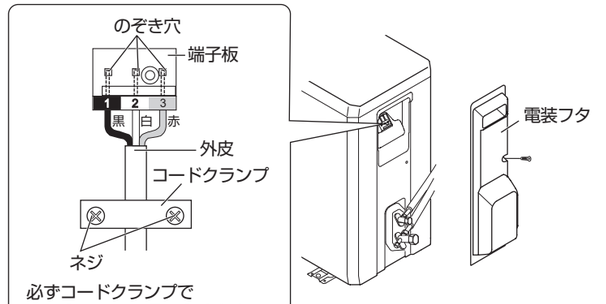
8 室外機のユニット間配線

1. ユニット間配線を加工する。
2. 電装フタをはずす。
3. ユニット間配線の心線を端子板の奥まで確実に挿入する。
・のぞき穴から心線が見えていることを確認してください。
・配線の色を確認して挿入してください。
4. ユニット間配線の外皮をコードクランプとネジで固定する。
5. ユニット間配線が確実に固定されているか確認する。
6. 電装フタを取り付ける。





警 告
VVFケーブルは中継器などを使って
中継接続しないでください。
中継器を使用すると接触不良を起こして、
火災の危険があります。



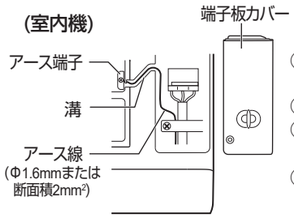
9 アース工事・漏電しゃ断器

アース工事や漏電しゃ断器の取り付けは、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って行ってください。

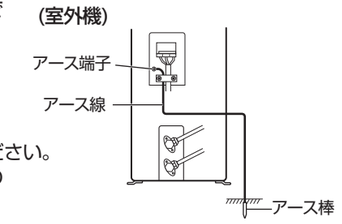
アース工事

必ずアース工事を行ってください。
(行っていないと、通電時にエアコン本体に触れたとき、
電気を感じる場合があります。)

- アース工事は、電気工事士の資格がある方が行ってください。
- 接地抵抗は100Ω以下にしてください。
  (漏電しゃ断器を取り付けた場合は500Ω以下にしてください。)
- アース棒およびアース線は市販品を使用してください。
- 室内機・室外機のいずれか一方に対し、アース工事をしてください。
- 製品に取り付けているアース端子以外のネジは絶対に使用しないでください。(配管の損傷により、冷媒が漏れる原因となります。)



① オープンパネルを開け、
エアーフィルターをはずす。
② 端子板カバーをはずす
③ アース線をアース端子に
接続する。
④ アース線を溝に押し込む。
(溝に押し込まないと、水漏れの
原因になります。)



漏電しゃ断器について

- 万一漏電したときの感電防止のため、漏電しゃ断器を設置してください。
- 漏電しゃ断器は、定格感度電流30mA以下、動作時間0.1秒以下の
  電流動作高感度高速タイプを使用してください。

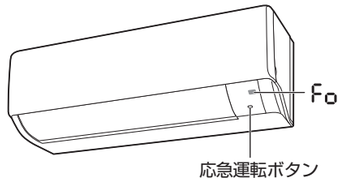
10 試運転(必ず行なってください)

試運転は、15分以上行い、風が冷えていることを確認してください。

1. 電源プラグをコンセントに差し込む前に、電源電圧をテスターで確認する。

2. 本体の「応急運転」ボタンを5秒以上押し続ける。
- 「Fo」と表示し、強制冷房運転をします。
  約25分間後、強制冷房運転は終了し、冷房または送風(風向：スイング)になります。
- 強制暖房運転はできません。

3. 停止するときは、本体の「応急運転」ボタンをもう一度押す。



試運転中に下記症状になった場合は、ご確認ください
「E6」表示：ユニット間配線が正しいか。電圧が正しいか。
冷風が出ない：2方弁、3方弁が開いているか。

移設・修理・廃棄するとき（ポンプダウン）

移設など、エアコンを取りはずす時は、地球環境保護のため、冷媒の回収(ポンプダウン)を必ず行ってください。

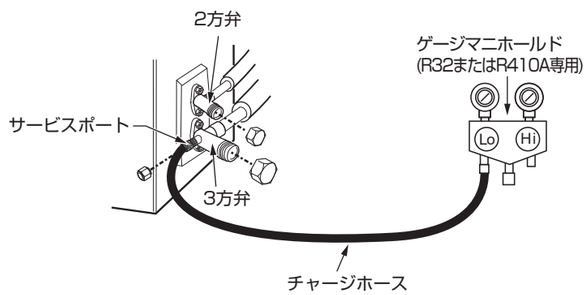
**1. 3方弁のサービスポートにゲージマニホールドの
チャージホースを接続する。**

2. エアコンを強制冷房運転させる。(5～10分間程度)
本体の応急運転ボタンを５秒以上押し続ける。
・「Fo」と表示し、強制冷房運転をします。

3. 2方弁を全閉にする。

**4. 圧力計がほぼ0MPa(0kgf/cm²)になるのを確認後、
すみやかに、3方弁を全閉にし、エアコンの運転を停止させる。**
長時間、運転し続けると故障の原因になります。

5. チャージホースを取りはずし、接続配管をはずす。



警 告

**下記の注意事項を守らないと、コンプレッサーが破裂し周囲に部品が飛び散り、
工事作業者自身が重篤なケガをする恐れがあります。**
- ポンプダウン開始前、冷媒漏れのないことを確認する。
- 配管折れ等により冷凍サイクル内に冷媒がない場合はポンプダウンをしない。
- ポンプダウン作業時には、閉鎖弁を閉じた後、配管をはずす前にコンプレッサーを停止する。

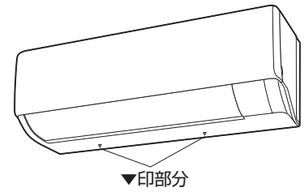
必要なときに

同じ部屋に当社のエアコンを2台設置するとき

1つのリモコンで2台が動作しないように、信号設定を切り換えることができます。(詳しくは取扱説明書を参照)

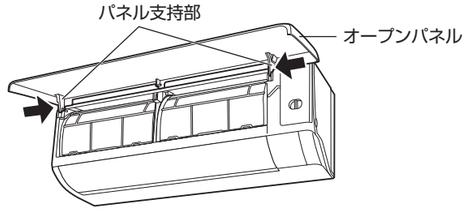
室内機を据付板から取りはずすとき

本体底面の▼印部分(左右2カ所)を押し上げ、
ツメを浮かせながら本体を手前に引く。
本体底面のツメが据付板からはずれます。

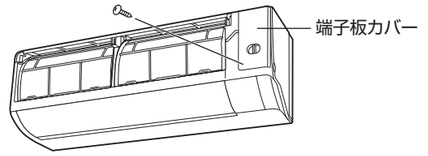


前面パネルを取りはずすとき

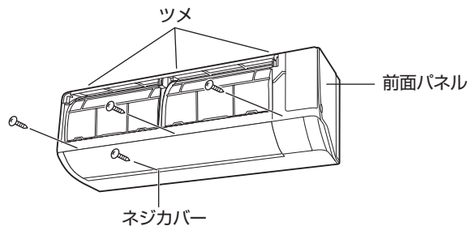
1. オープンパネルを取りはずす。
左右のパネル支持部を内側に押しながら
手前に引き抜く。



**2. ネジ(1本)をはずし、
端子板カバーを取りはずす。**



**3. ネジ(4本)をはずし、
前面パネルを取りはずす。**
天面のツメ(3カ所)を押さえて
ロックをはずし、手前に引き抜く。



HAアダプター(市販品)と接続するとき

接続ケーブルを室内機制御基板のコネクター (HA) に接続する。
- 「HA」コネクターは JEM-A に適合する HA 端子です。
- 「HA」コネクターから HA アダプターまでの配線の
  長さは、室内機から 2m 以内としてください。

